

ブレイクス

ブレイクスとは？

ブレイクビーツを用いたビートが特徴のジャンルです。

その手法をそのまま使って

「ブレイクビーツ」というジャンル名で呼ばれることもあります。

その成り立ちから、特定のリズムパターンを持つわけではなく、あくまで「ブレイクビーツ」の取り扱いこそがこのジャンルを特徴づける最大の要素といえるでしょう。

ブレイクスの特徴

「ヒップホップ」や「ドラムンベース」もブレイクビーツを用いたジャンルですが、それらとの大きな違いはテンポ感です。

ヒップホップはBPM80～100前後、ドラムンベースはBPM160前後なのに対し、ブレイクスはBPM130前後で演奏されます。

また、ヒップホップはあくまで「ラップ」が主体であること、ドラムンベースは「ドラムとベースの重低音」が主体であるのに対し、ブレイクスは「ブレイクビーツそのもの」が主体になっていることも大きな特徴です。

- BPM130前後の落ち着いたテンポ
- ブレイクビーツそのものが主役
- 波形編集やドラムサンプラーを用いたビート作りが主流

BPM130前後の落ち着いたテンポ

アップテンポで疾走感のあるドラムンベースに対し、
ブレイクスはBPM130程度と比較的落ち着いたテンポで演奏されます。

これはブレイクビーツを加工した複雑なビートを聞かせる上で程よいテンポ感。
ビートそのものを主体とするこのジャンルには最も適したテンポかと思います。

また、ハウスと同程度のBPMということもあり、
ダンスを目的としたクラブシーンでの使用にも適していますね。

ブレイクビーツそのものが主役

ブレイクスは、その手法がジャンル名にもなっていることから分かります、ブレイクビーツそのものが主役。

元となる素材を使って、
いかにクールでカッコいいビートを作り出すかがポイントです。

同じ素材を使っても、クリエイターによって多様なビートが生まれる点こそがこのジャンル最大の醍醐味かもしれませんね。

波形編集やドラムサンプラーを使ったビート作りが主流

以前はテープの切り貼りや、ターンテーブルを使ったDJプレイなど、特殊な技術が必要だったブレイクス作りですが、DAWが普及した現代ではだれでも簡単にチャレンジすることができます。

とくに波形編集を使う場合、DAW以外の機材を一切必要としないという点でも非常にお手軽になりました。

初心者にとっては少し難しく感じるかもしれませんが、お手軽な加工方法もありますので後ほど解説します。

ブレイクスのリズムパターン

これまでお話したことからも分かる通り、
ブレイクスは特定のリズムパターンを持ちません。

むしろ、元となる素材をどう調理するかがポイントです！
どんなリズムが生まれるかは、すべてあなたのアイディア次第ということです。

このあとご説明するテクニックを使って、思いおもいにビートを組み上げてください。

ブレイクスの音色選び

例によって、リズムループ素材を選定するところから始めていきましょう。

ブレイクスではどんな素材を用いてもビートを組み立てることができるため、その選択肢は無限大です。

とはいえ、最初はどんな素材が良いのか迷ってしまう方も多いと思いますので、完成形をイメージしやすいBPM130前後の素材を選ぶとよいでしょう。

素材自体はサンプリングCDやSplice Soundsなどの素材販売サイトを活用してみるとよいでしょう。

単発素材による補強

リズムループを用いたその他のジャンル同様、
ループ素材に単発素材やMIDI打込みをプラスして
リズムを補強するのも良い方法です。

昨今のブレイクスでは、キック、スネア、ハイハットなどの3点は
MIDIで置き換えられていることも少なくありませんので、
ぜひチャレンジしてみましょう。

ブレイクス制作のテクニック

ブレイクス制作に使える代表的なテクニックは以下の5つです。

- 素材の一部を置きかえる
- くりかえす
- 細かく連打する
- 単発素材を切り出して組み替える
- MIDIをプラスする

素材の一部を置き換える



くりかえす



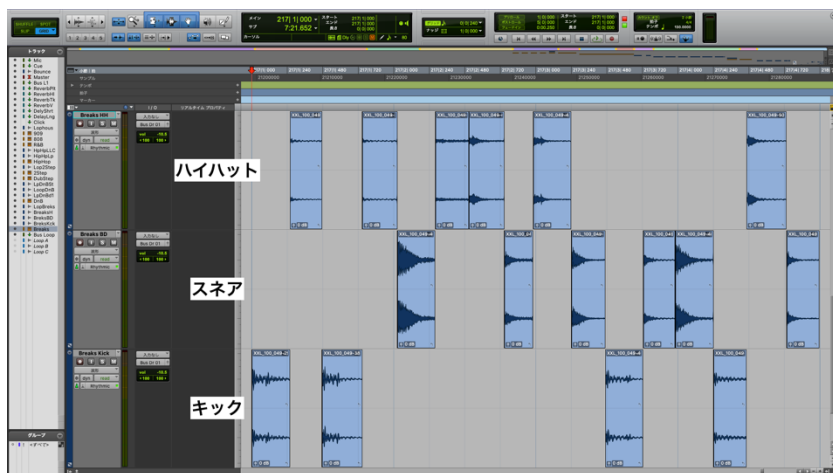
細かく連打する



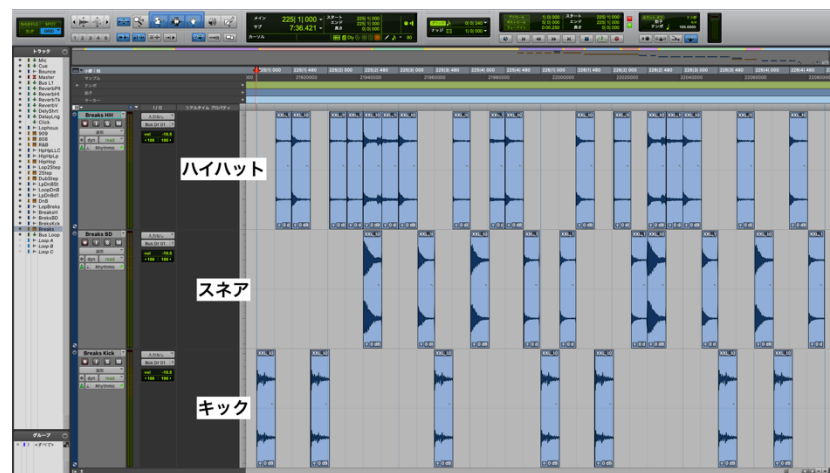
単発素材を切り出して組み替える

■ 単発素材を切り出してビートを組み替え

① 単発素材に分割する



② 組み替えて全く新しいビートに



MIDIで補強する場合

■ MIDIで補強する場合は、オリジナルのキックをミュートしてしまっても良い

オリジナルのキックをミュートしてサンプラー音源に差替え